

第1期 1995年～2005年

横浜市歴史博物館草創期を振り返って



夏休みめきし教室にて(1999年)

元学芸課長
前沢和之

平野邦雄先生からの勧めを受けて、群馬県教育委員会事務局を退職し、1994年4月に新設開館を控えた横浜市歴史博物館に学芸課長として着任しました。それが学芸課職員の最後の人事で、正確には博物館ではなく財団の学芸課長であることに職務の難しさを感じました。実際に、主管課である市教育委員会文化財課との折衝や開港資料普及

協会との財団統合問題では、「これが学芸課長の仕事なのか」と思い悩むことが何度もありました。

採用面接の際に、世間に知られた資料は所蔵していないが専門能力を持つ人材を集めたとの説明があり、課長としての役目は「学芸員それぞれの力量を発揮できる環境作り」と応じたところ、「それでやってください」と賛同を得ました。先輩に当たる神奈川県立歴史博物館や横浜開港資料館との違いをどこで示すかは、「横浜の通史をつくる」の意気込みが共有されているのを知りました。その実践として、常設展示室の中項目解説パネルの文案作成で、担当に関係なく全員が参加して検討を繰り返すことで手応えを感じました。また、隣接する国指定史跡大塚歳勝土遺跡や民家園と一体となった運営では、教育普及担当職員の大胆な発想や行動力が大きな支えとなりました。

開館した当時、周囲は造成工事の最中で、センター北駅からはニュータウンの文化拠点に相応しい姿を一望することができました。来館した方がたには、同心円状の構造で極力ケースを使わない方法を使った展示、最新の機器と手法を駆使した迫力ある映像で通史を案内する歴史劇場やビデオコーナー、それらを組み合わせた常設展示室は新鮮に映ったと思います。実際にそれぞれの関心に沿って観覧方法を選べる斬新な構成として、博物館関係者からも注目されました。

13年間の勤務で、最大の難関となったのが2006年の指定管理者制度導入への対応でした。全国の博物館から注目されていたこともあり、財団内部のいくつもの検討段階をへて、どの様な競合相手が出て負けない内容の書類にまとめて申請しました。結果は財団が継続して管理運営に当たることになって安堵したのですが、内容に示した様ざまな用務が、今も職員皆さんの負担となっているか気がかりです。

その一方、干支の午をめぐる愉快的思い出があります。ショップで小さなダルマの形をした馬の縫いぐるみを売り出したところ、その愛嬌ある姿から「だるうま」と呼ばれて、館内でも人気者になりました。この午年にもその一つが我が家に居て、ネコのよい遊び相手になっています。



だるうま

展覧会



1993年2/10～2/16



1994年3/31～4/5



1/31 OPEN



1/31～3/5



3/25～5/7



8/1～8/27



11/11～12/10



1/13～2/18



3/5～4/7

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

おもなできごと



シンボルマーク審査(9月27日)



シンボルマーク決定(9月27日)



プレ企画展 会場: 横浜高島屋ギャラリー



開館祝賀会準備(エントランスホール)



はじめての学校見学
(中川西小学校6年生105人来館)



開館記念特別展
「弥生のいくさと環濠集落」
オープン



入場者10万人達成(7月18日)



体験学習「ぞうり編み」



体験学習「竹細工」
入口前広場で竹とんぼを飛ばす



大塚・歳勝土遺跡公園開園式典(3月23日)

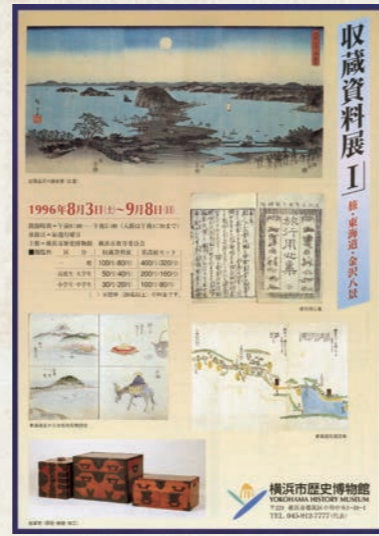
展覧会



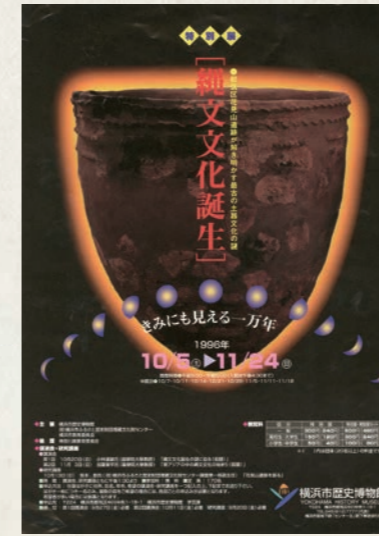
4/27~6/23



7/6~7/21



8/3~9/8



10/5~11/24



1/28~2/23



3/8~4/6

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

おもなできごと



横浜考古学講座
「港北ニュータウン発掘20年の成果」
第1回講師:岡本勇氏



コーヒーレストラン「カプリコーン」
(現休憩室)



体験学習「凧作り」



初の土器づくり教室



初めての野焼き(体験広場)



ふるさと横浜探検
「大塚・歳勝土遺跡公園と発掘現場の見学」
講師:小宮恒雄氏



特別展「縄文文化誕生」展示準備



体験学習「紙すき」



都筑民家園開園記念式典(3月29日)

展覧会



4/26~6/15



7/16~8/24



10/25~11/24



1/17~2/22



3/7~4/12

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

おもなできごと



大塚・歳勝土遺跡公園
全面オープンポスター



三笠宮崇仁親王来館



作品展「私たちが作った縄文土器」
(体験学習室)



都筑民家園で七夕コンサート



体験学習室で駕籠体験



企画展「横浜発掘物語」展示実験
「電子展示システム」(NTT データ通信との共同研究)
端末に触れる平野邦雄館長



防災訓練(都筑民家園)

展覧会



4/25~6/7



7/25~9/13



10/10~11/23



1/15~3/7



3/27~5/5

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

おもなできごと



体験学習「小田原ちょうちんづくり」(工房)



歴史講座「横浜の民俗」わら打ち



土器づくり教室成形作業(工房)



開港記念特別講演会「近代横浜の軌跡」
講師：高村直助氏



市営地下鉄各駅の電飾掲示板



遺跡ガイドボランティア

展覧会



5/29~7/4



7/31~9/15



10/9~11/28



1/29~2/27



3/25~5/14

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

おもなできごと



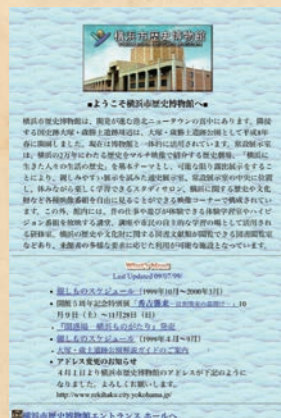
夏休みれきし教室



市営地下鉄戸塚湘南台開業フェスティバルへの出店(立場駅)



都筑・青葉区民まつり 出店参加



初代公式ホームページ (開設は1997年度)



博物館茶会(エントランスホール)

〈5周年記念ポスター展〉



展覧会



6/2~7/2



7/20~9/3



10/7~11/26

新指定文化財展
12/7
~
12/21



1/27~3/11



3/31~5/6

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

おもなできごと



企画展「くらしと道具の百科事典」展示風景
(エントランスホール)



企画展「くらしと道具の百科事典」関連 谷戸探検
講師：杉本義一氏



古代人まるごと体験講座



学芸員実習



ふるさと横浜探検
「小田原城址と石垣山」



歴史講座「縄文のムラと暮らし」
講師：坂上克弘氏



防災訓練



古代人まるごと体験講座食事の準備



特別展「発見! 巨大集落」展示風景

展覧会



7/20~9/2



9/22~10/14



10/27~11/25



12/4~12/23

平成13年度
新指定文化財展
12/4
〜
12/23



1/26~3/3

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

おもなできごと



私たちが作った縄文土器展(企画展示室)



体験学習「小田原提灯づくり」(工房)



都筑・青葉区民まつり出店参加



ふるさと探検 称名寺境内から野島を歩く



特別展「甦る大環濠集落」フロアレクチャー



古代人まるごと体験講座 環濠リレー
(大塚遺跡)



ふるさと横浜探検 よこはま事はじめ(山手プラフ18番館)
講師:半澤正時氏



開館記念特別講演会「鎌倉時代の東国の文化」
講師:五味文彦氏

展覧会



4/6~5/12



6/1~7/7



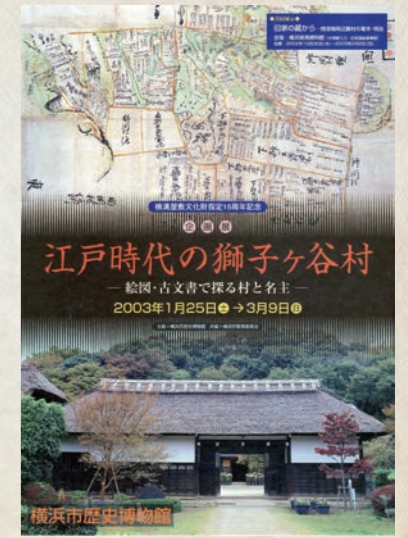
7/27~9/16



10/12~11/24



12/14~1/13



1/25~3/9

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

おもなできごと



体験学習「まがたまづくり」(工房)



ふるさと横浜探検「よこはま事はじめ」
(神奈川県立歴史博物館)
講師：半澤正時氏



企画展「たのしい考古学」展示風景



企画展「江戸時代の獅子ヶ谷村」展示風景



企画展「東へ西へ」フロアレクチャー



体験学習「土偶づくり」(工房)



古代史講読講座「大王と東国の豪族」
講師：平野邦雄 館長

展覧会



4/5~5/11



5/24~7/6



PART1 7/19~8/17
PART2 8/23~9/23



10/18~11/24



12/13~1/18



1/31~3/7

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

おもなできごと



古代遺跡宿泊体験 食器づくりに使う竹の伐採
(大塚・歳勝土遺跡公園)



ふるさと横浜探検「旧東海道鶴見周辺を歩く」



第5回エントランスホールコンサート
「弦楽四重奏の楽しみ」

〈ふるさと横浜探検「大塚遺跡と登呂遺跡」〉



(大塚遺跡)



(登呂遺跡)



神奈川県博物館協会企画巡回展
「タイムカプセル2100年への旅」
(エントランスホール)



古代史講読講座「郡家と地方豪族」
講師：前沢和之学芸課長

展覧会



4/10~5/16



5/29~6/27



7/17~9/5



10/9~11/28



12/11~1/16



2/5~3/13

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

おもなできごと



ふるさと横浜探検「山手地区」
(プラフ80メモリアルテラス)
講師：半澤正時氏



夏休みはくぶつかん寄席(出演：春風亭昇輔)



体験学習「そめもの」鴨川万祝染
講師：鈴木榮二氏

〈開館10周年記念博物館まつり〉



ポスター展

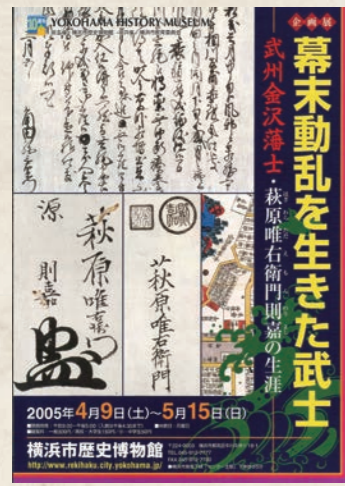


茶会(エントランスホール)



スタディサロン

展覧会



4/9~5/15



5/28~7/3



7/16~9/4



9/17~10/10



10/22~11/27



12/10~1/15



1/28~3/19

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

おもなできごと



文化財検索やクイズ形式のQ&A端末 (スタディサロン)



博物館実習 遺物の洗浄



出張土器作り(茅ヶ崎東小学校)



体験学習「紙すき」(工房)



ふるさと横浜探検「朝比奈切通と金沢道」



企画展「諸岡五十戸 木簡と横浜」フロアレクチャー (博物館感謝デー)



チャレンジ土器づくり 小学5・6年生、中学生対象(工房)

二つの柱



企画展研究講座「横溝屋敷を語る」
(2003年)中央 筆者、右 齊藤司氏

港北ニュータウン地域内の文化財調査、本牧元町の横浜市八聖殿郷土資料館、横浜市と上海市との友好をしめす上海博物館珍藏文物展、田原久先生との「横浜の文化財」-横浜市文化財総合調査(民俗文化財)-、獅子ヶ谷の旧横溝家住宅、そして横浜市歴史博物館、今は横浜市三殿台考古館と関係している私にとって、特に記憶に残るのは、横浜市歴史博物館時代の学芸員の猛者たちである。中でも活躍を残して、平野邦雄館長が陣取る冥界へ向かった齊藤司君と平野卓治君の2名のことである。

齊藤司君は近世史を専攻し、市内に存在する古地図に関心を示し、企画展ではムラ絵図を中心に展開していた。わたしが協力できた企画展示があった。鶴見川の南に獅子ヶ谷村が位置する。1987年3月31日、17代当主横溝和子家は、屋敷を構成する表門(長屋門)・主屋など5棟を横浜市に寄贈された。同年7月15日から表門・主屋などの修復工事が開始される。同年12月25日、横浜市文化財保護条例が制定され、1988年4月1日を施行日とする。同年11月1日、横溝屋敷は「旧横溝家住宅」として横浜市指定有形文化財(建造物)の第1号に指定された。その後、事務局は文化財課におかれ、課長を深井楯男氏が務め、地元では運営委員会が結成される。元教育委員長平島進先生が会長、横溝和子さんと昼間義信さんが副会長、廣瀬美弥さんが監事につき、全33名の委員会が組織され、1989年11月18日に「横浜市農村生活館獅子ヶ谷横溝屋敷」として全面公開となる。横溝家の屋敷「五郎兵衛」の名を冠した学童参加の「五郎兵衛教室」を始め、近隣小学校参加の「稲作コース」、文化講演会等が順次開催され進展していく。

このような時の流れのなかで、横溝屋敷は文化財指定15周年をむかえた。これを記念して、齊藤司君は横溝屋敷をテーマに企画展「江戸時代の獅子ヶ谷村-絵図・古文書で探る村と名主-」(2003年)を掲げ、多くの市民の来館を迎えた。

平野卓治君は、酒に強く、時に酒に負け、メガネをなくす男でもあったが、「日本書紀」を初めとする古代史の文献解釈をはじめ、発掘された資料にも判断を下す知識をもち、企画展を展開していた。代表的な特別展などをあげると次のようである。

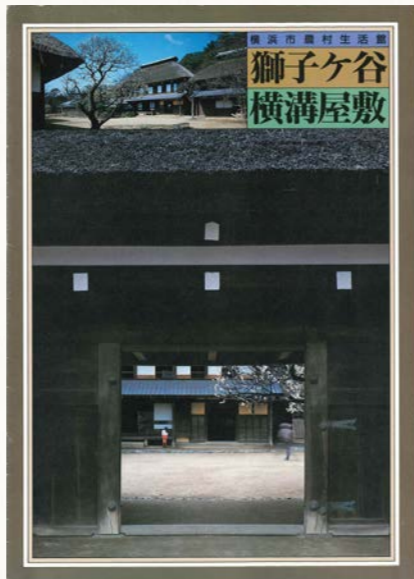
元普及振興係長 岸上興一郎

- 1998年10月10日~11月23日「兵(つわもの)の時代-古代末期の東国社会-」
- 2001年3月31日~5月3日「大古墳展 ヤマト王権と古墳の鏡」5博物館の巡回展に参加
- 2001年1月27日~3月11日「横浜の古墳と副葬品」
- 2004年10月9日~11月28日「ヤマトとアヅマー-武具からみるヤマト王権と東国」
- 2010年1月23日~3月22日「古代の役所と地域社会-誕生よこはまの郡家」

彼の調査地域は、関東全域は言うまでもないが、山陰の出雲地域、九州の博多を拠点とした海からの渡来文化に関心をもち、時は忘れたが、九州小倉城の博物館に務める私の先輩から、磯子区にお住まいで風の収集家であった金子富夫さんを紹介してくれないかの一報が届いた。早速、金子さんに打診し、了解をえた。すぐ小倉に連絡し、必要な展示用の風を送ることとなった。その展示を見学するとともに北部九州独自の風を見たくなり、平野君に話をすると博多湾界隈を再確認したいという。二人の目標は違いますが十分に資料を得るため、レンタカーを借り、行動した。ただ残念だったのは国立の博物館は建設途中であったことである。後年、家族で太宰府をお参りし、九州国立博物館を見学した。このことを平野君に伝えることは、いつのときであろうか。



齊藤さんと平野さん
web版有隣499号座談会写真より



横溝屋敷パンフレット

多様な関心に向き合うということ

元考古担当学芸員 安藤広道

横浜市歴史博物館の開館前、財団には海外の博物館の調査予算があり、私はそれでカナダのプリティッシュコロンビア州立大学人類学博物館(MOA)に行かせてもらいました。どうしてかという、この博物館のVisible storageを見たからです。

Visible storageは、収蔵庫と展示室を一体化させた空間で、そこで多様なプログラムを展開することにより、幅広い関心に応えることを目指したものでした。MOAは、このVisible storageによって、世界的に知られる博物館になっていたのです。

そのころの私は、分かりやすいストーリーを一方向的に教える、日本の博物館の在り方に大きな疑問を持っていました。MOA見学後はその思いが一層強くなり、横浜市歴史博物館でも多様な関心に応える取り組みをしたいと思案



NTTデータ通信との共同研究

していました。そんななかでそれを実現できると考えていたのが特別展・企画展です。具体的に言うと、特別展・企画展を取って特定の関心層に向けた内容にしようということでした。逆では?と思われるかも知れませんが、その都度異なる関心層に向けた短期の展示を繰り返していけば、結果、幅広い関心に応えることになると考えたわけです。

そこで私は、自分の担当した展示会で、土器を美術作品のように展示したり、展示室を研究者向けの資料調査の場にしたり、逆に市民の視線を強く意識したりと、さまざまな方向性を試みてみました。研究者向けの展示では、折よくNTTデータ通信との共同研究の機会をいただいたため、展示室にモバイル端末や大型ディスプレイを持ち込み、関心に合わせた情報を提供する実験を行うこともできました。

その成否はともかく、現在の私は、これらの経験から学んだことを一歩進めて、私たち一人ひとりを歴史を語る主体と位置づけ、博物館を対話の場にしていって取り組みを行っています。是非とも横浜市歴史博物館には、多様な関心に目を向けたうえで、異なる意見を対話で結びながら、一人ひとりが歴史との向き合い方を学べる場になって欲しいと思っています。



土偶づくり講師

開館当初のミュージアムショップ

元職員の井上攻氏、高橋健介氏、長岡浩美氏に当時のお話を聞きました。(2025年11月13日)



開館初日のミュージアムショップ

ロゴマークが決まる(1994年9月)までは商品化が進まず、オープン直前まで売れ物がほとんど揃っていませんでした。当時の職員の中には販売経験者がいなかったため、担当者は学生の手で急遽オープン前月に採用され、スタッフ集めからレジ操作まで手探りで対応しました。外部業者に依頼してミニタオルや絵はがきなどのオリジナル商品を



テレカとポケットティッシュを前にして

製作し、品揃えに尽力してもらいました。とにかく博物館オープンの日にお店を開けなければ、という思いで様々な人から協力を仰ぎながら準備に奔走し、1月31日を迎えました。

オープン時は、待ち焦がれた博物館へと来館者が押し寄せ、『市民グラフィックコハマ』の博物館オープン記念号や、テレホンカードなどが勢いよく売れました。その頃はお土産にテレカ、が定番だったのです。

当時はミュージアムショップというものが一般的でなく、担当はその理想形などよくわかりませんでした。だから、「どういうものであるべきか」ということを業界誌『月刊ミュゼ』の担当の方に相談したり、他の施設を見学

し、とにかく色々な人に聞きながら店づくりを進めていきました。ただ、今でも正面のケースの中にディスプレイされている「芝山漆器」は、横浜の伝統工芸品と技術の継承を伝えるべく、早々に専用ケースが作られるほど大切にされてきた商品でした。

その後、平野邦雄初代館長からの発案で、博物館収蔵資料を活用した「東海道木曾路新版振分道中雙六(すごろく)」を商品化したことは、当時を知る職員の中では有名な話です。さらに、体験学習参加者からの声がかきかけとなり、火打石を仕入れて手作業でセットにして販売するなど、オリジナル商品も徐々に生まれていきました。まが玉キット、古代米、「メ子の兎凧」など当時は普及振興係[2025年現在同係なし]と連携で商品化したものも多くありました。

後には企画展に合わせた書籍やグッズを仕入れて販売するようになりますが、企画展「くらしと道具の百科事典—ちょっと昔を探してみよう—」(2000年)に際しては、ショ



東海道双六

ップを駄菓子屋風に工夫して仕立て、木箱に駄菓子を詰めて販売するなど、展示と一体感をもつような凝ったディスプレイをしたことは今も記憶に鮮明です。



企画展に合わせた駄菓子屋風ディスプレイ

博物館をめぐる組織も整備途上で、準備室の移転や財団発足、市職員の出向と引き上げなどが続き、学芸・総務・事業係が課として機能する体制がようやく形になっていった時期でした。センター北周辺的环境も未整備で、帰りに立ち寄る店も無論ありませんでした。開発途中だったために道路も毎月のように変わる状況の中、博物館オープンは港北ニュータウン開発の目玉であり、来館者は2月に1万人、3月には3万人を突破する勢いとなりました。

混乱の中での立ち上げでしたが、関係者の試行錯誤と工夫、何より熱意によって、現在につながる地域博物館らしさを備えたショップ運営の基盤が築かれていったのです。

歴博が近くにある後半生

現展示解説ボランティア 清瀬喜美



第1期「遺跡公園ガイドボランティア」活動記念文集より

1994年都筑区誕生!丁度その頃港南区から都筑区に引越してきました。近くに横浜市歴史博物館の真新しい建物がだだっ広い造成地のまん中で輝いていました。博物館の近くに住めるなんてステキ!と思いとてもうれしかったことを思い出します。

市営地下鉄の窓から見える波を描いたコンクリートの壁は何かしら?とふしぎに思っていたのは、大塚遺跡を少しでも多く残そうとした苦肉の策の長大な擁壁でした。その上の遺跡公園が公開され、都筑区役所主催のウォーキングラリーに参加しました。真新しい堅穴住居が並び、柵の外にある方形周溝墓の溝の中には土器棺が2コ置いてありました。残念ながらそれは割れてしまったようですが、妙に記憶にのこっています。そんな遺跡公園のガイドボランティアの募集がありました。運よくボランティアの一人になりましたが、その先に待ち受けていたのは小学6年生を前に解説するという現実でした。勧められた『港北ニュータウン全遺跡調査概要』を読んだり、ガイドマニュアルを読みこんで、自分用のシナリオを作って心を落ち着かせました。初めての日、6年生クラスを前に夢中でしゃべり、何とか終わっての帰り道、こみあげてきた感情は、運転免許とりたてで車を運転し、ほっとして車から降りた時の気持ちと同じだ!というものでした。

そんな私でしたが、皆様のおかげで、二年間の予定期間を終える頃には、ガイド後の心の充足感、満足感から、もっと続けたいと思うようになっていました。でも、博物館側は、できるだけ多くの市民にガイドボランティアを経験していただくという趣旨でしたので、卒業しましたが、せっかくできた歴史好きの仲間でもこれからも勉強していこうとOB会「横浜・考古歴史の会」がたちあがり、私も仲間に入れていただきました。歴史の勉強は形を変えながら続き、15年後再びガイドボランティアとして活動させていただくこととなり、今も歴史を楽しんでいます。